



●2024 年度理事・監事・支部長

6月29日の定時社員総会において日本色彩学会理事および監事が決まりました。

引き続き開催された理事会において、会長および副会長が互選により選出され、本年度の理事会の体制が以下の通り決まりましたのでお知らせします。支部長は支部選出です。

会長 堀内隆彦

副会長（事業担当） 羽成隆司

副会長（学術担当） 岡嶋克典

総務担当理事 片山一郎

総務担当理事 土居元紀

財務担当理事 日高杏子

財務担当理事 富田圭子

編集担当理事 川澄未来子

編集担当理事 坂本隆

広報担当理事 若田忠之

MIC/ICD 担当理事 高田瑠美子

教育普及担当理事 櫻井輝子

将来構想担当理事 渡邊千穂

監事 高橋晋也

監事 酒井英樹

関東支部長 井澤尚子

関西支部長 須長正治

東海支部長 鈴木敬明

(学会メールニュース No.518 から)

●日本の伝統的な色名・白と黒

バーリンとケイの研究にあるように、白と黒は多くの民族で最も早く色名として成立する色名とか言葉とされている。

日本でも、120年間の編集期間を要した万葉集の中に、白と黒は早くから多く登場してくる伝統的な色名である。

春過ぎて 夏来たるらし 白たえの

衣乾したり 天の 香具山 (巻1-28)

白たえに続き、白波、白雲、白すが、白真弓、真白にぞ、白髪、白鳥、白き麻衣など単語が見られる。

一方、黒についても、黒馬、黒髪、黒木の屋根、黒牛、黒駒などが使われている。また、黒の枕詞として「ぬばたま」が使われて、「ぬばたま」、は黒玉とも書き、万葉集に四十用例余が見られる。

白とは、雪のような色。白い碁石。紅白対抗の白組。空白の状態。無罪や潔白。

一方、黒は墨、木炭のような色。黒い碁石。犯罪などの容疑の濃いこと。黒字のこと。

白黒をつけるという使い方で、物事の判定に使うことも多く、白にポジティブ、黒にネガティブな評価の尺度を与える使い方をされることが多い。

(永田泰弘)

●万葉集のなかの色 -13

紅に 衣染めまく 欲しけども
着てにははばか 人の知るべき

柿本朝臣人麻呂 (巻7-1297)

紅色に衣を染めたいと思うが、着て花やかに目立ったら人が知ってしまうだろうか。

かにかくに 人はいふとも 織り継がむ
わが機物の 白き麻衣

柿本朝臣人麻呂 (巻7-1298)

とにかく人は言うにしても、織り続けよう。私の機で織っているこの白麻の衣を。

この山の 黄葉の下の 花をわれ
はつはつに見て なほ恋ひにけり

柿本朝臣人麻呂 (巻7-1306)

この山の黄葉(モミジバ)の下の花を、私は僅かに見て、かえって恋しいことだ。

橡の 衣は人皆 事無しと
いひし時より 着欲しく 思ほゆ

柿本朝臣人麻呂 (巻7-1311)

つるばみぞめのように目立たない衣こそ無難だと、人がみんな言った時から、しきりに着たいと思うようになった。

巻7には、「船浮けて白玉採る」、「海神の持てる白玉」、「紅の深染の衣」、「紫の糸」、「月草に衣は摺らむ」などの色名が見られる。

*講談社文庫・中西進・万葉集から (永田泰弘)